

令和4年度 横浜旭陵高等学校 第3回学校運営協議会 議事録

- 1 日 時 令和5年3月11日(土) 13:30~15:30
- 2 場 所 県立横浜旭陵高等学校 B棟1F 多目的室
- 3 出席者 学校運営協議会委員：7名 (欠席 小玉敏也様 中野保弘様 山田綾香様)
学校関係者：11名 (管理職・総括教諭他)

4 議事録

(1) 校長挨拶

協議会委員の皆様こんにちは。この1年間、委員の皆様のご指導ご助言をいただいたおかげでやることができました。今回は最後の協議会となります。本校がこの一年間取り組んできた実績をお伝えさせていただきますので、奇譚なきご意見をいただければと思います。

(2) グループ等より目標達成報告

(研究開発G 東南総括教諭)

本グループは授業改善やコンソーシアムを主な柱として仕事としてやらせていただいています。まず授業改善についてですが、大きなものを3つやらせていただきました。

1つ目は4月と10月に授業見学月間を行いました。4月の授業見学では所属年次の生徒が多く在籍している講座を相互に見学し、10月の見学月間では後に控えている研究授業をより良いものにするためというような形で行っております。4月の授業見学月間では31人が参加していたのですが、10月では45人が参加され、教員の授業改善に対する前向きな取組みが見られたように思います。

2つ目は前期と後期の生徒による授業評価です。資料3に集計を載せています。前期が裏面、後期が表面になっております。ほぼ全ての教科において、肯定的な評価の割合が約2.6ポイント上がっており、教員の授業改善への積極的な姿勢が見えたと考えています。特に設問1では肯定的な意見が9割を超えています。他にも設問4や7にも一定数の意見が見られ、生徒が学ぶ意義等を感じることができていると考えられます。

3つ目の授業改善としてICTを用いた研究授業を実施しました。各教科の先生による授業では、様々な工夫が施された授業が展開されており、お互いに学ぶことが多い良い機会となりました。

また三重大学の瀬戸先生をお呼びし、認知行動療法について講義をしていただき、授業に取り入れる試みもできました。

本グループでは、常にICTの活用を取り入れることを意識した講習も行っており、先生方もスムーズに取り入れていくことができたと思います。

(学事情報G 大久保総括教諭)

本グループでは成績処理及び入試選抜という大きな山をようやく越えようとしているところです。

まず成績処理の方ですが、現行学習指導要領と新課程の学習指導要領が混在する一年目の年となっており、観点の数も違う中でミスなく行えるようにと行うことで気を配ってきました。ようやく成績処理の方もミスなく終えることができ、月曜日には成績認定会議を迎えることになっています。それから教育課程の編成に関しても、以前ご報告していました、在県外国人等特別募集で入学した生徒に向けた日本語という科目を置くことにしました。来年度からスタートしていく予定となって

います。

また来年の授業時間の作成も問題なく進んでいます。

入試選抜では、在県で1名、共通選抜で215名が合格しましたが、定員に満たないということで二次募集を行いました。15日に合格発表を行う予定です。これに加えて本校では追検査を行ったため、計3度の入試選抜を行うことになり、二次募集や校内の定期テストなどタイトなスケジュールでしたが、事故なく終えることができました。

今後も教員間で情報共有をしっかりと行い、事故なく進めるよう努めていきたいと考えています。

(進路支援G 原教諭)

この1年間の様々な場面で進路活動の支援をしてきました。後ろから3枚目に、3年生の進路実績についての資料があります。卒業生進路の資料の日付が3月31日ですが最終的に3月31日付で資料を出す準備資料ということでご容赦いただきたいと思います。

進学について、概ね例年と変わらず、生徒諸君はよく頑張ってくれたと考えています。中には数回受験をしながら、進路が決まらなかった生徒も複数名いますが、今もあきらめずに粘り強く進路実現に向けて頑張っています。

その他に、卒業してからもアルバイトで良いという生徒がいます。こういった進路はできるだけ辞めるように指導してきました。高校生を取り巻く求人の状況としては、コロナ前と比べると良い方向に向かっていると思われます。ただ、企業側が高校生に求めてくる業種業態と高校生が求めている業種業態に違いが見られると思っています。こういった現状から今続けているアルバイトをそのまま続け、次年度の準備をする生徒もいます。

(生徒成長支援G 山森総括教諭)

本グループでは生活・生徒指導、教育相談の二本柱で活動をしています。生徒指導の案件の数については3年前と比べ減少しています。しかし一方で規範意識の薄い生徒がバイク通学をしてしまうなどが見られました。スマホやSNSがらみのトラブルが多いですが、担任の先生にその都度指導していただいたり、式典や全校集会で私の方から注意喚起をしたりしています。

情報交換会議や問題対策会議を開いたり、それぞれの生徒にアンケートを取ったりしながら迅速な対応ができるようにしてきました。それからSC・SSWとの相談環境の充実にも努めてまいりました。

坂道が多いところに本校が位置していることもあり、自転車の事故が多いです。今年度は旭警察署と連携し、スケアードストレートを夏休み明けに交通指導として行いました。話をしたからと言ってすぐ変わるわけではないですが、粘り強く指導していきたいと思います。

(自主活動支援G 浦野総括教諭)

本グループからは、秋以降のことに関して報告します。今年度は体育館が使えませんでした、レクリエーション大会を実施しました。本校は球技に限らずいろんな種目ができるほうが良いということで、レクリエーション大会と呼んでいます。今年度は体育館が使えず、夏は廊下で綱引きを行いました。今回は大縄跳びと全員リレーを行いました。クラスに温度差はありましたが、参加した生徒は楽しそうに行っていました。なるべく、生徒の委員会や係を用いて、生徒の達成感などを意識

したいと思い、縄跳びの集計など生徒が中心に行いました。

ここ数年の傾向として担当の委員や係の招集をかけるとほぼ集まるようになっていきます。当然担任の先生方のご指導があると思いますが、これまでの積み重ねも大いに影響を与えているのではないのでしょうか。

先日、9日に旭区の社会福祉協議会、上白根と光が丘のケアプラザにご協力いただきまして、21期対象にボランティア講演会を行いました。

体育館が使えないのでリモートでしたが、渋谷さんにインタビューも投げさせていただいたり、職員の方々にも協力いただいたりしました。もうすぐ生徒のアンケートの集計が出ると思います。

旭陵祭についてですが、後夜祭は体育館が使えなかったので実施しませんでした。しかしもし開催されていれば、多くの生徒が積極的に参加しただろうと思われそうです。

プロモーションビデオやステージ発表については、「コロナだからしょうがないね、やめてしまおう」ではなく、「コロナでも何かできないか、校内で何ができるだろうか」と教員同士で話し合いを重ねました。その結果、各参加団体から動画を集めてそれを流したり、ステージの動画をラウンジでリアルタイム配信したりしました。配信する教室も複数用意し、密にならないように努めました。

最後に統廃合を控え、部活動についての心配があります。来年度もう一度入試があるのですが、それ以降は新入生が入ってこないため、部活動が心配です。部員数が確保できないことや顧問が足りないとなった時が心配です。自主活動支援グループからは以上となります。

(総務管理G 難波総括教諭)

本グループでは、広報活動の改善を行って、なんとか受験生の数を増やしていこうと取り組んできました。結果として定員には満たなかったのですが、学校説明会のアンケートの自由記述欄では、ほぼ100%の方が良い説明会だったと回答してくださいました。内容については、生徒を中心とした説明をメインにしたことが中学生やその保護者に好評でありました。また、中学校に訪問し、本校をPRさせていただきました。100校を目標に訪問したが、80校しか訪問できなかったため、次年度以降の課題であると考えています。ポスター等の配布で、非常に広い範囲の中学校からの受験があり、一定の成果があったと思われそうです。

次に防災関係の取り組みですが、本校は「3.11を風化させない取り組み」を行いました。3月8日に自衛隊の協力で、給水車、オートバイ、テントの設置及び土嚢の積み上げ等をグラウンドで公演していただきました。6名の方が陸海空の所属の方で、東北の復興や3.11の日に実際に関わった方たちでした。生徒は非常に真摯に講話を聴き、感想も非常によく書けていたと思います。また、次年度以降も、地域の方にも声をかけて実施を続けていきたいと考えています。

またPTAの方には植栽にも協力してもらいました。殺風景な昇降口が非常に和やかになり、生徒の心もある程度和んだのではないかと思います。

(副校長)

6つのグループのリーダーから今年度の取り組みについて、ご報告させていただきました。学校評価報告書について、4月の目標を立てた所を説明したものとなっています。何か気が付いた点等ございましたら、ご意見いただければと思います。よろしく申し上げます。

・委員の方からご意見ご助言

(佐久間様)

旭陵高校といえば、ICTという認識があります。来年度から中学校でもライブ配信という形を取り入れることになりました。苦手な先生もいるが、旭陵高校はすべての先生が毎時間行うのでしょうか。

(大久保総括教諭)

科目の特性というものがあります。各科目のなかで必要ところで効果的に使うのがICTの利点だと考えています。苦手な教員もいるが、コンピュータチームの先生方やICTが得意な先生がサポートに入ることにより取り組みの輪が広がっていけばと思っています。また、今年から1人一台端末を導入しています。ご購入いただいたからには、クラス運営や授業で積極的に取り入れていくために、教員間でのサポートやアイデアを出しながら協力していきたいと思っています。

(佐久間様)

スマホのトラブルについてです。旭区内で一件、闇サイトで受け子をやってしまった子がいますが、高校生のほうが結構いるのではないかなという気がしています。高校生のSNSの指導を行うのは大変だと思いますが、子どもたちに指導をしたときに指導が入っていくのでしょうか。なかなか中学では問題が減っていかないので、高校生はどうなのか気になりました。

(山森総括教諭)

何度指導してもなかなか浸透しないところはあります。お酒やタバコの場面をSNSに上げてしまうようです。なぜそういうことをしてしまうのかわからないですが、そういうことが日常になってしまっているようです。その時は反省をしますが、通常の生活に戻るとまた同じことをしてしまうというところがあります。

(佐久間様)

進路についてのお話です。アルバイトが進路先として卒業してしまうといったが、卒業後の支援はするのでしょうか。

(原教諭)

卒業後の支援については、生徒が言ってきてくれたら、もちろん支援の準備も心構えもあります。5月までは新卒扱いなので支援をするし、してくれると思っています。高校卒業後にアルバイト等で気楽な生活に慣れてしまうと、そこからなかなか抜け出せない現状があるように思います。再び就職活動をする生徒はなかなかいないので、卒業後に支援する生徒はごく少数となっています。

(佐久間様)

もう一点伺います。横浜市は働き方改革、教職員の勤務時間を短くしろであるとか、部活動の時

間を減らせという指示がきています。高校は長時間勤務の実態はいかがでしょうか。

(副校長)

コンピューターで勤務時間を管理職が把握しています。季節的なものもありますが、月間で80時間を超えると産業医に繋がなければならないという県の決まりがあります。それ以外の80時間未満の方は、多いとき、年度始めは3分の1が超過勤務をしているといった状況です。

では、早く帰ってもらうためにということで、やらずに帰ってくださいとは言えません。勤務時間については、年間を通じてやりくりしています。本校は部活動があまり活発ではないので、週休日の勤務時間については比較的抑えられているように思います。

(佐久間様)

本日の報告を聞いていても、先生方が本当によく頑張っていると思っています。

(大和田様)

認知行動療法について、福祉の分野では聞く名称ですが教育の現場でも盛んに取り入れられているのですか。

(校長)

4月に来て学校の状況を見る中で生徒たちが自信を持てなかつたり、前向きになりたくても前向きになれなかつたりした様子を感じていました。資料の1枚目、学校業務報告書の一年間の目標の中にある①の中に書きましたが、本校の生徒は自己肯定感を高める必要があり、どうすべきか手立てがありませんでした。そのような中で、ある先生が他県で教えていたときに、県内で発表を行うなど実践をされていることを知りました。その際に関わりのあった三重大学の先生と関係を持つことができ、授業で認知的行動療法を取り入れることができないかと考えました。小学生から高校生にかけて自死をしてしまう子が多い中で、授業の中でその改善を目指す考えをお持ちの先生が多くいて、本校の先生は前向きに取り入れてくれています。

夏休みのときには校内研修を行い、瀬戸先生にご講義いただきました。多くの先生が参加して楽しく研修することができました。どういう研修だったかという、言葉を使って物事の捉え方を変えることができるのではないかと、今はできないけど、「まだ、伸び代がある」と考え直す、つまり認知を変えるというところを目指しました。

認知的行動療法授業を取り入れた授業を教員7人が工夫して実践し、先生方で共有したこともあります。そのような授業を収録したDVDを作成したのですが、困り感のある学校や自死してしまった子がいる高校が、旭陵の先生の授業のDVDが欲しいという声が多かったです。

来年度の全体の研修から総合教育センターでも認知的行動療法を取り入れた授業を取り入れるようです。県全体に広がっているなど感じています。

(大和田様)

良い取り組みであり、もっと広がっていくとよいです。総務管理について80校ほど訪問して説明

会を行ったとありましたが、どのようにされたのでしょうか。

(難波総括教諭)

どの学校でもやっていると思いますが、職員が本校の特色や本校が求める生徒像をお伝えしています。学校案内や進路状況などの資料のお土産をクリアファイルに入れて、本校の魅力を職員が中学校の教員に説明するというものです。一般の高校だと中学の先生もイメージしやすいのですが、本校の特色はなかなか知りませんでしたという中学校も少なくありません。中学校の先生から生徒に伝えることによって、本校の特徴や取り組みをより知っていただき、説明会に足を運んでもらうというねらいがあります。管理職を含む全職員で中学校訪問を行いました。職員の協力なしでは実現できなかったのではないかと感じています。

(大和田様)

自衛隊に来てもらって、学生さんに体験をしてもらうような取り組みのお話もありましたが、いろいろな社会資源を活用しているという印象を受けました。また、地域との連携を大切にされていると感じました。コロナ明けで活動的にはなっていくけれども、これからもどんどん取り入れて教育の方に活かしていただけるといいと思います。

(渋谷様)

地歴について、一斉教授と生徒主体の授業の言葉の違いがわかりません。お教えいただけますか。

(地歴公民科主任 本田教諭)

一斉教授はチョークアンドトークの授業をイメージしていただければ良いと思います。また生徒主体について形態は自由だが、生徒が話を聞くだけでなく、自ら考えられる授業を行うということです。本校の生徒は基礎学力が低いいため、一斉授業は必要になります。一方で、90分の授業では、一斉授業だけだと生徒が学習に取り組みきれないという現状があります。生徒主体での授業も必要であり、うまく織り交ぜていかなければならないという考えから、このように記載しました。

(渋谷様)

私事ですが、高校のときに歴史の先生の授業で、歴史について今まさにおっしゃっていただいたような授業をしてくれたので非常に楽しく、勉強になった思い出があります。今後もぜひそのような活動をよろしくお願いします。

次に地域貢献デーについてです。来年も旭陵高校の生徒さんとぜひ一緒にやりたいと思っています。6月5日は世界環境デー、7月9日は旭北で設定した地球お助けデーになっています。その日に一斉でなにかやりたいと思っています。

地域の小学生が前向きで何かやりたいとアタックしてくることがあります。そこでバス停の草が茂っているところを花壇にしたいと活動したりしています。小中学校が主体だったが旭陵とも何かやりたいなと思っています。

また今年度は4年ぶりに中学の卒業式に出席しました。旭北中は3月で無くなります。上白根中

と合併前の最後の卒業式でした。今年の卒業生は、入学してすぐにコロナで休校になってしまいました。そのせいか、涙を流す生徒も多くいて、生徒の結束力がたいへん高く、コロナでお互いに助け合ってコロナのなかでもプラスの面があったと感じた卒業式でした。

(渡邊様)

ICT利活用について、クラスルームの使い方も生徒がかなり慣れてきたのではないかと思います。聞いたところ、個別の質問ができるとなお良いと生徒からありました。というのも、校舎が広く、授業の担当の先生がどこにいるかわからないということがあるようです。クラスルームで個別の質問ができるコーナーがあればなお良いと思いました。

また、旭陵高校ではテスト対策をこまめに行うと感じています。認知行動療法の講義の後あたりからのように感じるが、子どもたちが、テストに取り組みやすくなるように対策を行ってくれることが増えました。生徒がテストで良い点を取ると自己肯定感も上がり、とても良いサイクルになっていると思っています。

さらに、さきほどの委員会の集まりについて、呼び出しの放送をすると生徒が集まってきっちり並ぶのがとてもいいところでした。PTA活動でも先生方に助けられていると感じています。来年度も助け合っていきたいと思います。

そして、進路指導支援、生徒の学習支援について、サポートティーチャーがすごく聞きやすいと言っていました。学校に行って聞けば先生が教えてくれると生徒が皆言っていました。

地域との協働についても、だいぶ外で活動できるようになって来て、すごいいいことだなと思っています。写真部がズーラシアでズーラシア駅伝の写真を撮る活動があったのですが、行ったら楽しかったと言っていました。

最後に防災について、20期は研修旅行で震災について学んだあと、3.11を風化させない取り組みで自衛隊が来たことで、連続性があり、深い学びを担っていたと思いました。風化させないためにも自衛隊に来ていただく活動はすごく良いと思いました。

【3.11で被災された方に向けて I 分間の黙祷】

・年次の報告

(21期年次主任 鵜飼教諭 東南総括教諭代読)

ルールやマナーの定着がまだまだ不十分なところがあるので、今後しっかりと指導していきたいと考えております。後期に入り、欠席や中抜け、早退が増えてきているので、しっかりと指導していきたいと思います。また、2年次の研修旅行に向けて、規則正しい生活習慣を定着させるとともに、ルールやマナー、モラルの向上と助け合いや思いやりの精神を高められるよう指導していきたいと考えています。

(20期年次主任山森教諭)

まさに中だるみという言葉がしっくり来ています。しっかりやっていること、中弛みになっている子の差が激しいと思っています。1年次では進学希望者が少なかったのですが、2年次では多く

なりました。卒業年次になったら、さまざまな進路実現のための支援をしていけたらと考えています。また、2年次から3年ぶりに研修旅行に行きましたが、行くか行かないかの決断にとっても迷いました。最終的に管理職と相談のうえ行くことになりました。

館長の話、アクアマリン水族館のお話、語り部さんのお話を聞く機会がありました。バスの中で語り部の方が、当時のビデオを流してくださって、少しショッキングな映像もありましたが、生徒たちも色々感じるものがあったのではないかと思います。職業体験の方でも色々経験できたり、自由時間でも楽しそうにしていたりして、行ってよかったと思います。

来週の金曜日には、パシフィコ横浜へ進路説明会を受けに行きます。今後も生徒の指導を続けていきたいと思っています。

(卒業年次主任 大久保総括教諭)

ようやくここまで来たなという実感があります。今年は19期だけでなく、18期の4年次生もいました。18期生は前期で一人卒業、後期でまた一人となりました。先程、渋谷様からありましたが入学式のときも生徒のみで執り行い、遠足も研修旅行もいけない年次でした。卒業式も体育館が改修工事を執り行っているため学校では式ができない状況です。

そんな年次でしたが、研修旅行に行っていたはずの期間に福島とオンラインで繋いで、フラダンスのレッスンをしていただいたり、「あかべこ」の動画を見たり、させていただきました。また今年度の12月にはシーパラダイスに行き、生徒たちの思い出を限られた中でも作れるようにしてきました。

卒業式は旭公会堂で行うことになっており、学校としても初めての取り組みです。いろいろと考えることも多いですが、生徒の思い出に残るよう力を尽くしていきたいと考えております。

生徒たちですが、本当に自分の進路を見つけようとする生徒が多かったように思います。進路グループからの報告にもありましたが、来週も就職試験に望む子、会社見学に向かう子もおり、まだまだ諦めていない生徒がいます。

また、アルバイトの話や、就職準備が多いという話がありましたが、無認可のトリミングの学校に行くことになったり、学童の支援員を目指して研修を受けていたり、夢を追いかけるということで友人とキッチンカーをしたいからアルバイトでお金を貯めたりといった、様々な生徒がいます。

一方で、自分で判断して行動することに、不安を感じることもある子たちが一定数いることも事実です。送り出すことに不安もありますが、3年間頑張ってきた子たちを信じて送り出してあげたいと思っています。なにかあれば戻ってきて相談に乗るといことも併せて伝えたいと考えております。

(3) サポートティーチャー活動報告

(学事情報G 大久保総括教諭)

最後の資料をご覧ください。

平成27年度から着任していただき、今年度も生徒たちに寄り添って、個別の支援等していただいております。三階の職員室の斜め前の教室を用いて「CO-Study LAB」という名でサポートをしていただいております。そこでは数学や理科といった生徒が苦手とする授業に行ったり、生徒のわからないと

ころを教えたり、といったことをしていただいています。

部屋に来る生徒たちも用途は様々で、上級学校への進学のための勉強を見てもらいたいという生徒や、テスト勉強に用いる生徒などがいます。

また毎週月曜日に、今年度在県で入学してきた中国国籍の生徒に日本語の指導の勉強を見ていただいています。あとは、教育相談を必要としている生徒がいますが、その子たちの勉強も見ていただいています。

本当に様々な面で支援をいただいております、生徒たちもそこに行けば勉強を教えてもらえるということで居場所として認識しているように思います。そう言ったことからサポートティーチャーを使う生徒が昨年度よりも10%増えました。引き続き来年度も、生徒の勉強のサポートをしていただくようお願いしています。

(4) 委員よりご意見ご要望等

(渡邊様)

STは全県の学校にあるのでしょうか？

(大久保総括教諭)

STは全県に設置されているわけではありません。もともとは国の支援があったのですが、すぐに国や県の支援が打ち切られたので、本校独自の取り組みとして行っている形になります。

(渡邊様)

STが無いと、もう成り立たないのではないかなと言うくらいありがたい存在であると思います。担任の先生以外にも心よりどころがあるということは大変ありがたいなと思っております。

(校長)

ありがとうございました。長い時間にはなりましたが、いただいた言葉は本当にありがたいものでした。委員の皆様ありがとうございました。校内で他の教員にも伝えまして、来年度も頑張っていきたいと思います。

(5) その他

(副校長)

令和3年度の開催の時に、教育委員会から委嘱状をお預かりし、それを皆様にお渡ししました。それ以降令和3年度からの方は2年間、令和4年度からの方は1年間お世話になってまいりました次年度からは、1年単位のお願いと言う形になります。また継続してくださる方もいらっしゃるかと思いますので、次年度になりましたら、正式にご依頼させていただくと思います。異動等で来年以降参加が難しくなる方は、引き継ぎを是非お願いしたいと思います。どうぞよろしく申し上げます。1年の方2年の方それぞれいらっしゃると思いますが、本当にありがとうございました。

それでは、これで令和4年度第3回学校運営協議会を終了します。